

## 陳述書

2016年12月26日

私の名前は・・・・・・で、同志社大学大学院総合政策科学研究科後期博士課程の修了性です。2007年の4月より技術・革新的経営（TIM コース）の後期博士課程に入学し、いくつかの講義を受けながら研究を始めました。元来、大阪府摂津市で病院を開業していましたが地元医師会の理事に就任したこと、大阪府医師会医療問題研究会の委員に指名されたことなどを契機として医療問題について関心が高くなり、もう一度社会的な視点を学びなおしたいと考えるようになりました。

そんな時に、同志社大学大学院に TIM コースが創設され、その教授陣を知るところとなり、入学しようと思いついたわけです。私の予想通り、TIM コースの教授陣はどの先生方も社会人である私が学びなおすには、適している先生方ばかりでした。中でも、山口薫教授が指導される『システム思考、システムダイナミクスモデリング手法』については、私の研究テーマである「医師の需給バランス」には、ぜひとも必要であること、医療経営（組織経営）に関しても応用できることをすぐに理解しました。そして、山口薫教授に指導と支援を仰ぐことにしました。

私は、後に山口薫教授がシステムダイナミクスの分野において、日本では数少ない専門家であり、関西では唯一指導できる教授であることを知りました。2008年より、山口教授の講義、演習、実習を受けることでシステムダイナミクスの基本が理解でき、自分の研究テーマに取り組むことができました。山口教授の指導は、本来大学院で決められた講義科目のみならず、受講生には社会人が多かったために、それ以外にも研究仲間と一緒に議論できる機会の提供等にも及びました。具体的には、日曜日や祭日などの休日にもかかわらず、こうした研究の機会を定期的に開催していただき、ご指導いただきました。同教授の人脈から関東や他大学からの学生、企業・社会人や教授らも幅広く参加され、大学院での正規の講義を補足してくれる非常に有意義な研究の機会となりました。

2013年3月に山口薫教授が突然解雇されたことを知り、非常に驚き、愕然としました。今まで培ってきた学問や自分の研究は今後どうなるのだろうかという不安でいっぱいでした。また、なぜ解雇されたのかの説明もなく、より不安が増強されました。しかし、その後も山口薫教授は学外で約2年もの間、私の研究や学会発表の指導をボランティアでしてくださいました。同教授の指導のおかげで2013年11月の第4回政治社会学会、2014年2月の第1回アジアパシフィック・システムダイナミクス学会で研究発表を行うことができました。そして、2015年3月には、研究テーマを題材にした本「なぜ医師不足が起こったのか」も出版することができました。同教授の継続的な親身のご指導がなければ、私の研究は存在しなかったと断言できます。

近年、地域医療ビジョンにおいて統計学的手法を用いるのが当たり前のように言われていますが、山口薫教授はその点においてもシステムダイナミクスは医療でも必ず役に立つという考えを持っておられ、その例としてハーバード大学医学部等の米国の大学や公的機関に於けるシステムダイナミクスの実践例を教授してくれましたので、私の医療現場での実践にも大いに参考となりました。

上述したような理由で、同教授の指導と支援についての説明を陳述書として提出いたします。

内科医 . . . . .

大阪府豊中市 . . . . .